

令和7年度 協働提案事業選考結果報告書

令和7年9月

小牧市健康生きがい支え合い推進部支え合い協働推進課

目 次

1. 協働提案事業化制度の概要

- (1) 制度の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (2) 各提案タイプの状況
 - 市民提案型 “きらめき” ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 - 行政提案型 “はばたき” ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2. 提案事業の選考について

- (1) 選考の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- (2) 各提案タイプの選考状況
 - 市民提案型 “きらめき” ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - 行政提案型 “はばたき” ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

1. 協働提案事業化制度の概要

(1) 制度の目的

市民（市民活動団体）と行政それぞれが、協働で取り組むべき地域課題等を提案し、解決に向けて取り組むことにより、小牧市を「市民が輝く活気あふれるまち」とすることを目的とする。



(2) 各提案タイプの状況

市民提案型 “きらめき”

【内 容】

市民(市民活動団体)から行政へ協働事業を提案するタイプ

【応募資格】

- 1) 小牧市市民活動推進条例に基づく「市民活動団体」として登録している団体で、『まちを育む 市民と行政の協働ルールブック』に定める事項を遵守できる団体

《市民活動団体の条件》

1. 市民活動を行うことを目的とした団体であること
2. 3人以上の会員を有していること
3. 主に市内で活動している、または活動の拠点が市内であること
4. 代表者や運営方法が、定款、規約、会則等で決まっていること

- 2) 原則として、団体としての活動実績が1年以上ある団体
- 3) 提案事業の契約を有効に締結できる団体

行政提案型 “はばたき”

【内 容】

行政から市民(市民活動団体)へ協働事業を提案するタイプ

【応募資格】 ※行政提案事業に対する応募団体

- 1) 小牧市市民活動推進条例に基づく「市民活動団体」として登録している団体で、『まちを育む 市民と行政の協働ルールブック』に定める事項を遵守できる団体

《市民活動団体の条件》

1. 市民活動を行うことを目的とした団体であること
2. 3人以上の会員を有していること
3. 主に市内で活動している、または活動の拠点が市内であること
4. 代表者や運営方法が、定款、規約、会則等で決まっていること

- 2) 原則として、団体としての活動実績が1年以上ある団体
- 3) 提案事業の契約を有効に締結できる団体

2. 提案事業の選考について

(1) 選考の流れ

【ヒアリング】

○令和8年度実施協働提案事業ヒアリング

《実施日》令和7年8月2日（土）

【一次選考】

○協働のまちづくり実務者会議

《選考日》令和7年8月14日（木）第4回協働のまちづくり実務者会議

○小牧市市民活動促進委員会

《選考日》令和7年8月27日（水）第5回小牧市市民活動促進委員会

委員長：竹中烈（愛知文教大学 准教授）

副委員長：三島知斗世（（特非）ボランタリーネイバース 副理事長、調査研究部長）

委員：戸成司朗（（一社）中部SDGs推進センター 代表理事、（特非）中部プロボノセンター 顧問）

委員：関哲雄（（特非）こまき市民活動ネットワーク 代表理事）

委員：藤岡典一（（特非）岡崎まち育てセンター・りた 事務局総務リーダー）

委員：伊藤かおり（住友理工株式会社 環境推進部担当次長）

委員：大句規代美（ボランティアセンター運営委員会）

委員：鈴木佳世（ウィメンズネットこまき 代表）

委員：森田弘子（公募委員）

【二次選考】

○協働提案事業選考委員会

《選考日》令和7年9月16日（火）

(2) 各提案タイプの選考状況

①市民提案型 “きらめき”

《選考要領》

【一次選考】協働のまちづくり実務者会議、小牧市市民活動促進委員会

協働のまちづくり実務者会議各検討グループ、小牧市市民活動促進委員会委員により、下記選考項目について採点基準を用いて採点を行った。

《選考項目》

	項 目	内 容	補正值
1	必要性	実施する価値はあるか。市民ニーズに沿っている事業か	×2 点
2	公益性	公益的な事業であるか	×1.5 点
3	協働性	協働することで、より一層の効果が期待できる事業か	×1 点
4	効果性	第三者に対する具体的な効果や成果が期待できる事業か	×1 点
5	展望性	事業のビジョン(到達目標)が明確にされているか	×0.5 点
6	適正性	予算の見積もりは妥当か	×0.5 点
7	実行性	実行可能なスケジュールや事業内容か	×0.5 点

《採点基準》

点 数	評 価
5点	優れている
4点	やや優れている
3点	普通
2点	やや劣っている
1点	劣っている

①事務局で作成した採点集計表を提出し、採点結果の確認を行った。

②採点結果の確定、コメントの整理を行った。

※協働のまちづくり実務者会議と小牧市市民活動促進委員会の採点の結果、得点率がいずれも60%未満の事業は、一次選考で不採択とし、それ以外の事業は、一次選考通過とする。

【二次選考】協働提案事業選考委員会

一次選考の内容を踏まえ、事業の採択について協議した。

《選考結果》※得点率については、小数点第2位切捨て

No.1	提案事業名：日本語指導が必要な子どもの学習支援事業							
提案団体名	特定非営利活動法人にわたりの会							
事業概要	・外国にルーツのある児童生徒や高校生などの若い年代の市民（国籍は日本でも日本語指導が必要な子ども、過年齢のため中学校に在籍できなかった生徒も含む）が希望する仕事に就き、地域生活に適應できるようにするための学習支援をする。 小牧市は外国人支援が他の市よりも充実しているので、市と連携をはかり、事業を実施する。彼らの高校進学率を高め、高校中退を未然に防ぎ、自立した市民の増加をはかる。 ・保護者に必要な情報を伝え、学校生活のサポートや進路相談など、必要に応じて在籍する学校と連携をし、細やかなケアを行う。 ・開催場所は南部コミュニティセンター、城山会館。その他オンラインでも実施する。 また、市内で学習支援を行う手まり塾にインストラクターを派遣する。 ・きめ細やかな支援のために支援者（インストラクター）を増やすための講座を開く。							
協働のまちづくり実務者会議								
各項目の点数及び得点率	必要性	公益性	協働性	効果性	展望性	適正性	実行性	合計
	76/90	52.5 /67.5	32/45	32/45	14/22.5	12.5/22.5	15/22.5	234 /315
	84.4%	77.7%	71.1%	71.1%	62.2%	55.5%	66.6%	74.2%
コメント	・外国にルーツのある児童生徒や高校生が増加しており、日本語を学び続けたい意欲のある子どもを支援する本事業は意義があると考えます。 ・教育機関や他団体と連携を取りながらインストラクターの育成や指導マニュアルの整備などの手法の確立に努めてください。 ・開催場所の拡大、オンライン活用も含めて多くの児童が参加しやすいような環境の整備を進めてください。 ・今後も事業を継続していくために成果指標を明確化し、支援対象者数・育成したインストラクター数などの実績と費用対効果を定期的に評価して経費の精査を進めてください。							
小牧市市民活動促進委員会								
各項目の点数及び得点率	必要性	公益性	協働性	効果性	展望性	適正性	実行性	合計
	76/80	52.5/60	34/40	34/40	16.5/20	14/20	15/20	242 /280
	95.0%	87.5%	85.0%	85.0%	82.5%	70.0%	75.0%	86.4%
コメント	・対象が高校生に広がると就労支援の必要性が高まるため、関係部署と連携をしながら、支援の幅を拡充していくことを期待します。その際に協働担当課と密に連携を取っていただけるのかについて課題意識をもって進めてください。 ・日本語学習支援ニーズの増加に対応し事業の持続性を確保するため、インストラクターの募集・養成を計画的に強化していきましょう。また減免制度などの収支の取り決めなどを協働担当課と相談を行ってください。							

	・小牧市は外国人市民の割合が高く、子どもたちが将来自立した市民となるための受け皿としてこの事業は非常に重要です。日本語教育を必要とする多くの方に届く方法を検討してください。加えて現場で得た経験を活かす育成プログラムを確立し、支援を受けた子どもたちが将来的に支援する側に回れる仕組みづくりが進むことを期待します。
二次選考結果（協働提案事業選考委員会）	
結果	採択【協働する部署：多文化共生推進室】

②行政提案型 “はばたき” ※令和 7 年度応募なし

《選考要領》

【一次選考】協働のまちづくり実務者会議、小牧市市民活動促進委員会

《選考項目》

	項 目	内 容
1	必要性	実施する価値はあるか。市民ニーズに沿っている事業か。
2	妥当性	団体(市民)の特性が活かされるような事業内容や実施方法か。
3	協働性	役割分担が明確であるか、また、協働することで、より一層の効果が期待できる事業か。
4	効果性	第三者に対する具体的な効果や成果が期待できる事業か。
5	展望性	事業のビジョン(到達目標)が明確にされているか。
6	実行性	実行可能なスケジュールや事業内容か。
7	実現性	団体には事業を遂行する能力があると認められるか。

《採点基準》

点 数	評 価
5点	優れている
4点	やや優れている
3点	普通
2点	やや劣っている
1点	劣っている

【二次選考】協働提案事業選考委員会